

ー私立大学環境保全協議会第7回海外研修報告ー

『デープスリン・ノンタブリ校 (タイ)』

早稲田大学環境保全センター 松井 菊子
東洋英和女学院・聖心女子学院講師 関口 静子

[学校の概要]

デープスリンは、バンコク市内にある有名な寺院の名前である。この寺院内に設立されたデープスリン校というサッカーの強い男子校が有る。その分校でノンタブリン県に有るので、この校名になった。こちらは男女共学の公立校である。13～18才の生徒総数は2654人、その約3分の2強が13～15才(日本の中学生)、3分の1弱が16～18才(日本の高校生)で構成されている。仏教の学校であり、国王様の教えにそった教育が行われている。特に環境問題への積極的な取り組みを行い、生徒の親も含めて、地域の環境改善の実践をめざしている。昨年はトヨタ社や環境省の援助により取り組んだ環境問題のプロジェクトが、国内で優秀な成績を収めて賞をもらった。今年度も引き続き、この活動を行っている。



笑顔の生徒たち

[環境活動]

学生と先生の環境セミナーへの参加に加え、これまで3つのプロジェクトを推進している。以下の活動は主に課外活動で行われたものであり、生徒の発表による。先生の話では通常の授業でも理科や倫理の時間に環境を考える時間を設けているとの事であった。これからは、学生自身が環境を良くするコンテストのようなものを作り、生徒が改善の方向を示せるようにしたい。

①グローバルウォーミングの訓練

●ごみの分別

グループに分け、分別の実践 後グループを評価して賞や景品を渡す。

(分別によるCO₂削減などの3ヶ月の計算結果)

●植林

森林局から苗の提供をうけ、府との協力で学校入口に植えた。

(成長は苗の状態などですべて順調ではない。木の種類によりCO₂削減計算)

●省エネ

周辺小学校との協力で、省エネキャンペーンのアイデアや絵のコンテスト実施

●リサイクル

環境保全局からの協力を、受け朝は住民、午後は学生向けのセミナー開催。リサイクル品(封筒・人形その他のグッズ)作りを行う。



校内のゴミ箱



ゴミの集計

②青年の活動

グローバルウォーミングの影響で生じた成果を学校内で示す。

③宗教を交えて環境を考える。

[学校長の話]

環境は学校のポリシーであり、良き社会人を育てる中心となるもの。環境問題を知ることは、倫理観を持って社会に貢献できる大人を育てることになる。大切なものは規律であり、規律を重んじる日本人がモデル。そのため日本語を学校でも教え始めたが、まだ、同好会である。これからは、各クラスに導入し、将来は日本との交流もしたい。国王が「末永く幸せに」と言われた。これは自分だけでなく周囲も幸せでないと、本当の幸せならない。その為には学生が学校を好きになる事が大切で、そのようになるよう指導している。これが、国王の示された幸福につながることで、国の方針とも一致する。



説明会での質疑応答

[感想]

バスで学校を訪れたときから終了まで、先生方や生徒が友好的に歓迎して下さった。案内された部屋で先生や学生の活動の報告や、学校長のお話を伺った。その後、学校内の環境関連の部屋や校内の庭などを見学させていただいた。建物や庭の清掃が行き届き、仏様や国王のお姿が飾られ、規律を重んじた教育が伺われた。生徒とその親を含めての関係を重視して、地域に環境守る意識を根付かせようと努力している。但し、分別されたごみのリサイクルや処分に関して行政の体制が整って、初めて効果を発揮すると思う。

軍隊服の学生がいたりするのは少々違和感があったが、逆にそのために、規律が守られている部分があるかもしれない。先生方も生徒も、穏やかな話し方や優しい微笑みに満ちた態度であり、最近の日本人の事を思うと、規律が大切に日本人がモデルと言われた学校長のお話は、耳が痛い思いであった。



記念碑の前で

以上